

## 中小企業で広がるクラウドファンディング 案ずるより産むがやすしの姿勢で

日刊工業新聞社論説委員長 岡田直樹

インターネットを通じて資金調達する「クラウドファンディング」が中小企業でじわじわ広がっている。クラウドファンディングに対して抵抗感や苦手意識を持つ経営者も少なくないだろう。それぐらい日本での認知度は低い。資金調達側の経営悪化などで「出資金が戻らない」「予定した商品やサービスを受け取れない」といったリスク要因ばかりが頭をよぎるからだろうか。一方、資金調達側に立つと、販路拡大にとどまらず、顧客の囲い込みや市場ニーズの把握、在庫削減など、さまざまな副次的効果が期待できる。2014年版中小企業白書には、クラウドファンディングをテコに新規事業に乗り出すことができた中小企業が紹介されている。それらの成功事例をもとに、秘訣や課題をまとめた。

神亀酒造（埼玉県蓮田市）は、嘉永元年（1848年）創業の老舗造り酒屋。1987年から醸造アルコールを使わない純米酒に全量を切り替えた。ただ純米酒を製造するには原材料の米代が大きな負担となる。熟成酒となると味が安定するまでに2～3年かかるため、投資と回収の時期に乖離が生じてしまう。そこで資金調達サイトを運営する企業のファンドを用いて2007年9月に「神亀ひこ孫ファンド」を組成し、1口5万円の募集で1,050万円を調達した。現在までに24ファンドが運用され、2013年3月にはカナダのバンクーバーに販売会社を設立するに至っている。

工業分野でも新商品開発にクラウドファンディングを役立てる動きが出ている。宇賀神溶接工業所（埼玉県朝霞市）は、ステンレスをはじめ各種金属材料の精密板金加工やアルゴン溶接加工を得意にしている。障害をもった人物からの依頼でスタイリッシュな新しい乗物として、低価格の手漕ぎ自転車を製造しようとした。しかし行政や金融機関から融資を受けられなかったため、知人がモノづくりに特化した資金調達サイトを立ち上げたのを契機に、2013年8月から資金募集を始めた。

両社とも資金調達以外のメリットが大きかった。神亀酒造はファンドの償還率を低めに設定する代わりに、出資者に現物の純米酒を特典として提供したり、蔵見学や

勉強会を実施したりするなど、純米酒ファンの囲い込みや裾野を広げることができた。「ファンドと聞いて最初は戸惑ったが、資金調達サイト運営事業者の手厚い支援のお陰で、実際にやってみると思ったより難しいものではなかった」と社長の小川原良征さんは振り返る。

宇賀神溶接工業所では、手漕ぎ自転車が市場に受け入れられるかどうかを測るマーケティングの効果があつたという。最低1台を製作するために必要な資金50万円を目標金額とし、最終的には6歳の少女を持つ両親からの注文により59万5,000円を調達できた。成功の秘訣は、企画した製品やプロジェクトの魅力をいかにアピールできるかにあるという。社長の宇賀神一弘さんは「プロジェクトの紹介ページを作成するにあたり、ユーザーの興味を引く映像を撮影・編集する必要があつた。またインターネット上の活動報告などの『空中戦』だけでなく、対面で呼びかける『地上戦』も重要だった」と述べている。

カメラ用の本革ケースやバッグを企画・製造・販売する魚住（福岡県福岡市）は、知人が立ち上げた資金調達サイトを通じて、最終的にカメラバッグ400個以上の生産費用に相当する約650万円を調達した。社長の魚住謙介さんがクラウドファンディング活用のポイントについて「製品の開発過程や紆余曲折を積極的に発信していくことが、かえって面白いと感じてもらえるのではないかと。ただし多用し過ぎると飽きられてしまう可能性があるため、ここぞという時に万全の体制で活用したい」と語っているのは参考になる。

いずれの企業も、ユーザーに興味を持ってもらうための訴求がうまくいったことが成功の要因といえる。自社製品の特長や開発のコンセプトにとどまらず、製造段階の物語を明らかにすることで資金提供者に親しみや信頼を持ってもらうなど、アピールの仕方に工夫を凝らしている。独創的な技術やアイデアを持ちながら、資金面の制約から商品化にたどり着けない中小企業や小規模事業者にとって、クラウドファンディングは一考に値しよう。案ずるより産むがやすしの姿勢が肝要だろう。

### 筆者紹介

岡田直樹（おかだ・なおき）

1984年、日刊工業新聞社に入社。中小企業取材を振り出しに、生命保険・損害保険・銀行など金融業界、半導体メーカーなど電機業界、NTTはじめ通信業界、経済産業省、金融庁を担当。その後、論説委員として2年半、工場災害や製品事故、防災（BCP）などに携わる。12年4月から現職。55歳、埼玉県出身。

7つの間違い探しの答：①提灯の炎（右上） ②幽霊のみみあげ ③幽霊の左手の向き ④お岩さんの襟あわせ ⑤提灯の下部 ⑥ハチマキの結び方 ⑦カタナの鐔（つば）の大きさ